

胃がんの内視鏡治療（ESD）

今回は副院長で日本消化器内視鏡学会専門医の、
宮池次郎医師に「胃がんの内視鏡治療（ESD）」に
ついて伺いました。



▲宮池 次郎 医師

使つて、胃の内部から粘
膜層を含む粘膜下層まで
を剝離し、病変を一括切
除する治療法です。この
方法により、広範囲に
拡がる病変でも一括切除
が可能となり、正確な病
理診断も可能です。外科
手術のようにお腹を切開
したり、臓器の一部を取
り除いたりする必要がな
く、患者さんにかかる身
体的負担が少ないことが
特徴です。また、適応症
例であればESD後の局
所再発の可能性は極めて
低く、完治を目指すこと
が可能です。ただし、が
んが粘膜下層の深くまで

浸潤している場合や、リ
ンパ節や他の臓器に転移
している恐れがある場合
には、ESDではなく、
がんの切除と同時に、転
移の可能性があるリンパ
節の切除を行う外科手術
が必要となります。

ESD（内視鏡の粘膜
下層剝離術）とは、胃が
んの早期治療法の一つで
す。胃の壁は粘膜層、粘
膜下層、筋層の3つの層
から成り立っています。
がんは最も内側の粘膜層
から発生し、早期の段階
では粘膜下層まで広がる
ことがあります。
ESDは、胃カメラを
浸潤している場合や、リ



社会福祉法人
恩賜財団 **済生会今治病院**

今治市喜田村7丁目1番6号 <https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎ **0898-47-2500**



で、粘膜表層の毛細血管
やそのパターンなどが強
調して鮮明に表示される
観察技術）などを併用
することで、早期診断と
ESD適応診断に役立て
ています。より早期に発
見することが重要ですので
で気になる方は相談して
ください。